

挑みつづける、変わらぬ意志で。



報告14

スリランカ官民合同 ビジネスミッション概要報告

2026年3月12日
第790回常議員会

- 日本・スリランカ経済委員会（委員長：小林文彦・伊藤忠商事副社長兼CAO）は経済産業省、外務省、日本貿易振興機構（ジェトロ）と合同でスリランカへビジネスミッションを派遣した。
- 本ミッションは、ディサナヤケ大統領が昨年9月に訪日した際に小林委員長が直接スリランカへ招待されたことを受けて派遣したものである。
- スリランカが経済危機から着実に回復しつつあることを受けて、両政府間では2016年以来10年ぶりに経済政策対話が再開され、[「輸出志向型産業回廊構築に向けたロードマップ」](#)に基づき、協力を深めていくこととなった。両国のビジネス関係者も同会合に出席し、意見を述べた。
- 一行はディサナヤケ大統領をはじめ、サマラシンハ貿易大臣、ハンドゥンネッティ産業大臣への表敬訪問を行った。

1. 日程：2026年2月15日～19日

2. 派遣先：スリランカ（コロンボ・キャンディ）

3. 参加者：小林委員長、磯俣在スリランカ大使、松尾経済産業審議官、島野経産省南西アジア室長、室谷外務省南西アジア課長、奥村ジェトロ理事、長宗産業調査員、伊藤忠商事、三井物産、三菱商事、東京共同会計事務所等委員企業関係者など総勢40名

2月16日（於：コロンボ）

コロンボ港 コンテナターミナル視察

日・スリランカ経済政策対話

スリランカ・日本ビジネス協議会幹部との面談

日本・スリランカビジネスフォーラム

2月17日（於：コロンボ）

ディサナヤケ大統領表敬

サマラシンハ貿易・商業・食料安全保障・協同開発大臣表敬

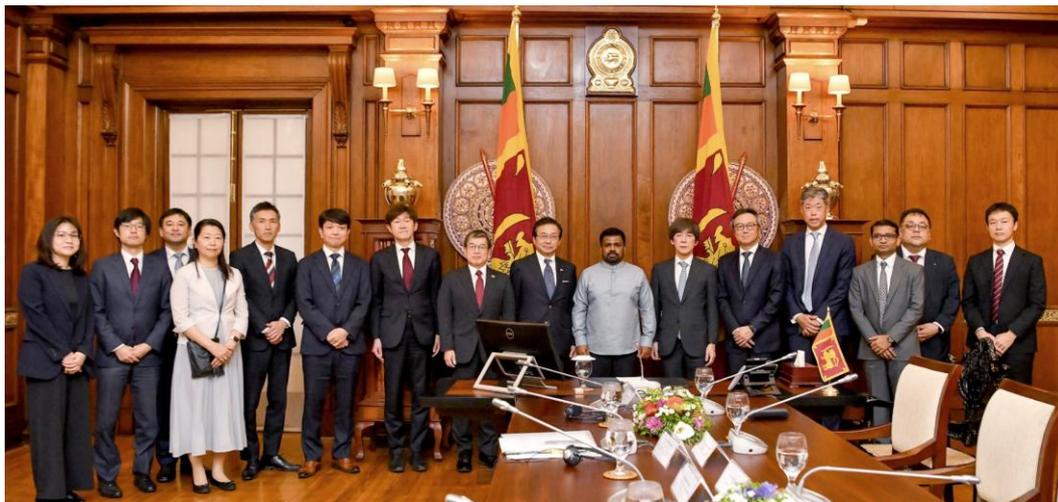
ハンドウンネッティ産業・企業家育成大臣表敬

コロンボ・ポートシティ視察

磯俣大使主催夕食会

2月18日（於：キャンディ）

ノリタケランカポーセレン社工場見学（マータレ市内）



【ディサナヤケ大統領】 「輸出志向型産業回廊に向けたロードマップ」構想で合意した事項の実施の重要性に触れた上で、日本企業が困難に直面した際は連絡してほしいとの発言があった。

【磯俣大使】 ディサナヤケ大統領が推し進める腐敗撲滅の取り組みへ感謝を述べ、経済の安定化や復興を超えた大きなビジョンの策定に関する期待を示した。

【小林委員長】 同構想は日本企業が南アジア市場をはじめとしたグローバルサウスへのアクセスを確保するうえで極めて重要であり、サプライチェーンの多角化と競争力強化にも繋がると強調した。

【松尾経産審】 日本の官民が有する先進的な技術と資金により、同構想に関連したプロジェクトを実現してスリランカの経済成長に貢献したいと述べた。



【サマラシン八貿易大臣】 農業、観光業、海運業などを挙げ「投資の呼び込みで経済の安定性を高めたい。日本企業の投資促進に向け、課題に直面するようであれば教えてほしい」と呼び掛けた（=写真左）。

【ハンドゥンネッティ産業大臣】 鉱物などのスリランカ天然資源を活用した付加価値付けのため日系企業の投資を促進して欲しい旨要望があった（=写真右）。

【小林委員長】 スリランカにおいて制度改革やビジネス環境の改善が進んでいることを踏まえて、今後も予測可能で透明性のあるビジネス環境の実現に向けた継続的支援を求めた。また、官民の協力の中で、さらなる成功事例を共に創出できることに期待を寄せた。



- 冒頭、2016年以来10年ぶりに経済政策対話を再開することを受けて、松尾経済産業審議官及びK.A.ウィマレーンディララージャ貿易・商業・食料安全保障・協同開発省次官の両共同議長及び両国外務省代表者が、本対話に係る新たな協力覚書（MOC）に署名を行った。
- 官民合計で約70名が出席し、民間からは三井物産のコロンボ港に関連する事業、伊藤忠商事のドール・アジアにおけるバナナ事業に関して発表があり、「輸出志向型産業回廊構築に向けたロードマップ」構想に基づく貿易・投資環境の整備について活発な議論が行われた。
- 小林委員長は、同構想の重要性を説明した上で「さらなる投資拡大には港湾や周辺道路などの物流インフラの整備、税関手続きの透明性向上といったソフト面の改善が不可欠」と呼び掛けた。



▲フォーラムには約200人が参加、官民有識者によるパネルディスカッションなどが行われた（=写真左）。フォーラムに先立ち、アトゥラ会長をはじめとしたスリランカ・日本ビジネス協議会（SLJBC）幹部との面談が実施された（=写真右）。

【奥村ジェトロ理事】 スリランカの投資環境改善について触れ、予見可能で透明性の高い制度や手続きなどを求めた。

【小林委員長】 同国の経済債務再編への取り組みやIMFプログラムの着実な実施を評価し、さらなる持続的な成長、産業高度化に向けた協力について言及した。

【フランガムワ大統領上席経済顧問】

投資家保護に向けた法整備を進める考えを示した。

【松尾経産審】

地理的優位性を生かしたスリランカのさらなる経済発展に期待を寄せた。



◀ コロンボ港の視察では、コンテナターミナル運営会社であるSouth Asia Gateway Terminals (SAGT) のスティーブン・クヌーセン社長から港湾概況の説明を受けた。同港は地理的好条件などを背景に、中継港として南アジア地域の主要港湾となっている。

国際金融センターやビジネス拠点、商業・住宅施設などを備えた大規模経済特区を目指すコロンボ・ポートシティの視察では、モデルオフィスの見学やプロジェクトの概要説明などが行われた。



視察（ノリタケランカポーセレン社）



- 1972年の創業以来、全世界向けの高級洋食器の海外生産拠点として操業しているノリタケランカポーセレン社を視察。小原社長からは、スリランカ人の手先が器用で勤勉な国民性を活かし、現在は同工場にて約1,100人の従業員を雇用していると説明があった。
- 同社はスリランカ人材を活かし、日本国内やフィリピン、アイルランドなどの製造拠点をスリランカに集約し、陶磁製品の約9割を同工場で生産している。
- 学校や病院の支援、水害によって損害を受けた道路の復旧などの社会貢献に率先して取り組むことで、地域住民との交流拠点となり知名度が向上し、日本では採用が難しい高学歴で優秀な人材も確保している。

挑みつづける、変わらぬ意志で。

